

野蒜復興新聞

復興部会員 市役所担当者 復興計画等協議



復興部会員、市役所担当者、コンサルタント等合わせて約30名が参加した(野蒜市民センター)

課題6項目検討中

防災 防犯 通勤

商店 医療 行政

6月25日に今年度第3回目の復興部会が開催されました。まず報告されたのは、「お地蔵さんプロジェクト」についてです。現在、山形県のNPO法人が被災地3県へ震災で亡くなられた方の鎮魂と心のよりどころとなるよう、お地蔵さんを建立する活動を実施しており、石巻南浜地区へは今年3月に建立。現在は野蒜地区におけるお地蔵さんの建立を、実行委員会を新たに立ち上げ協議中であることが報告されました。復興部会からは3名が委員会に参加しています。

また今年2月に実施した「在宅住民の声アンケート(二百四回取/二百四十六配布中)」の集計結果の課題を、3月から6月まで復興部会でどうすれば良くなるのかを協議してまいりました。課題は6項目あり①防災について②防犯について③通勤通学について④医療について⑤商店・コンビニについて⑥行政について。今後はこの6項目において復興部会員を担ごうと振り分け、さらに関係者と協議を進め、1つでも課題解決ができるよう活動を進めていくこととまとまりました。そして今年度中に以上の結果を在宅住民の方へアンケートの活動結果として報告できたらと進めています。

さらに市の都市計画課からは、次回の会議までに元地利用の計画(案)を提示できたらと準備を進めていると説明をいただきました。背景としては今年

復興部会員からの提案など

- 海岸沿いの堤防へは道路を横断しなくてはならず危険を感じる。堤防と道路の間へ車を駐車できるスペースをもうけてはどうか?
- 野蒜の各行政区等で無線機を購入するなどして、緊急連絡体制を

自主的に準備したことは心強い。

- 震災後人口が減少した。今後この野蒜地区においてのまちづくりでは、基本コンセプトとして人口が増えることを前提に、新たなまちづくりを推進していきたい。

2月に野蒜地区の魅力発見ワークショップを各部署で実施し、地域住民から野蒜地区の資源や魅力についての意見交換会を実施していただきました。野蒜の資源を生かした魅力的なまちづくりができるようさらに協議を進めていきたいと思えます。

高台移転部

災害公営住宅希望者役員会議



7月4日高台移転部会の災害公営住宅希望者役員会議が開催されました。まずは市の担当者から野蒜地区にける災害公営住宅の進捗について説明していただき、その後意見交換を実施。現在野蒜北部丘陵地区の災害公営住宅の入居希望数は百六十七世帯、建設予定戸数は百七十戸と希望者全員が入居できるように計画されています。今後は7月から11月までの間に仮申し込み、その後本申し込みを予定。詳細については7月の市報に掲載された7月12、17日に予定されている説明会で対象者全員へお知らせします。

また意見交換では、今後さらにこの会議のメンバーを増員し多くの意見を取り入れていくこと。本申し込みまでに、災害公営住宅の間取などの見学会を実施し、イメージできるように配慮して欲しいこと。高齢者の見守りや利便性に配慮したまちづくりの必要性などが協議され、次の部会では新たな体制で協議することとまとめられました。

高台移転部会 アンケート報告 新たなまちづくりルール検討



6月16日に第3回、7月7日に第4回高台移転部会が開催されました。このたびは、防災集団移転促進事業で造成先を個人で住宅建設を希望された方々からアンケート集計結果の報告です。二百六十二世帯の方が住宅建設を希望し、その中の約70%が旧コミュニティに対応し、移転エリアを希望者併用住宅希望者23世帯、並びに画地希望者は42世帯。集計結果から新たな課題が浮上しました。それは移転エリアの希望と計画区画数の需給バランスから、東部エリアを希望する7世帯と中央エリアを希望する1世帯が他のエリアへ変更する必要があること、併用住宅の土地利用計画を踏まえた建物用途の制限内容、集約、立地などのように定めるか

ということですが。検討している方法としては、旧コミュニティの希望を優先確定とし、旧エリアから計画区画数を超えた他のエリアを希望している世帯で抽選すること等です。

また今後新しい理想のまちづくりを実現するために、「まちづくりルール」を定めていかなくはなりません。そのためには、既に存在する規制ルールに、居住する住民が合意のもとに必要なルールを上乗せする手法を協議していただきます。

宮城大学顧問の先生からも、持続可能な地域をつくるためにはまちづくりルールが必要になつてくること。綺麗な街並は若い人々にとっても居住ステータスになるだけでなく、管理も行き届き活気があること等の説明がなされました。

また部会員からも、環境未来都市に選定されているこの野蒜の地で、高台移転先の新しいまちづくりと繋がりを果たせれば、さらに希望が膨らむのではな